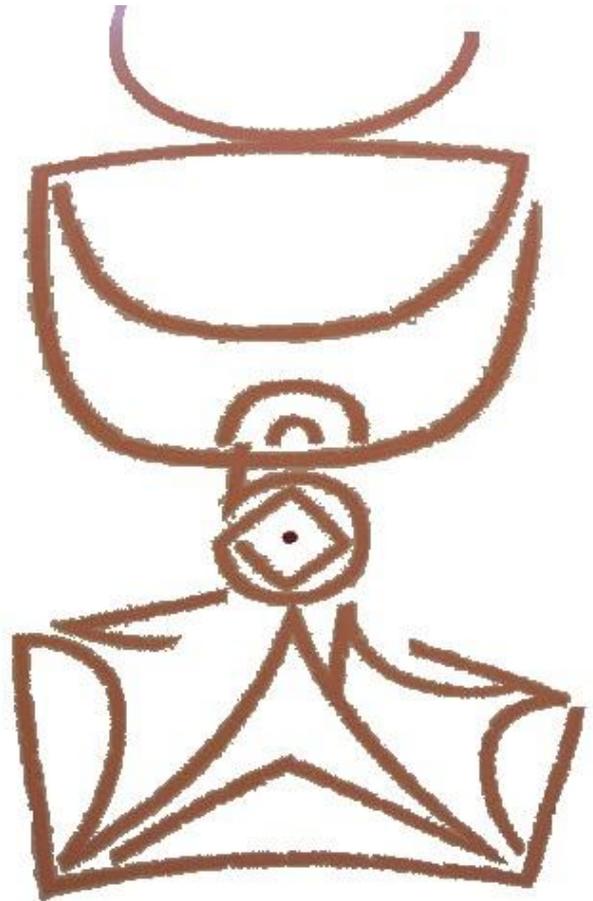


感謝の祭儀のすばらしさ（1）



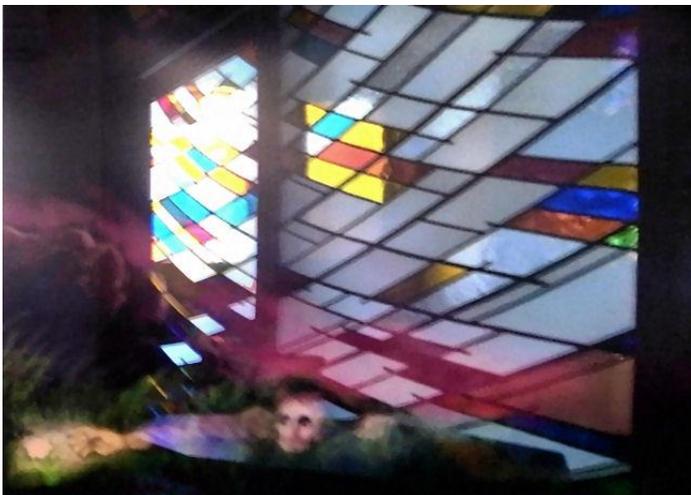
「最近“ミサ”をサボってばかりですみません」。初めてこの言葉を耳にした時、一瞬戸惑いました。「“ミサ”をサボル」の「サボル」という言葉はフランス語に由来し、20世紀の初め、労働争議で紛争中労働者が、サボ（木靴）を使って機械を破壊した事から使われました。正しくは「サボタージュ」と言い、労働紛争を早期に解決させるために取られた手段を意味します。「ミサ」に対して使われた場合は単に休む、怠けると言う意味で使われているでしょうが、その言葉は「ミサ」に対する理解が浅く、知識も乏しく、「ミサ」の大切さを意識していないしるしとなっているのではないのでしょうか。いずれにしても響きの悪い言葉です。それを思いますと、私たちは感謝の祭儀の素晴らしさ、その尊さ、その大切さについて時々真剣に考える必要があるのかもしれませんが。

*「感謝の祭儀の意味と意義」は一つの形をもって現されています。それを「典礼」と言いますが、意味も解らず、意義も理解せずにいると、典礼は単なる儀式となり、実生活と縁のない形式的な宗教行事の一つに」になってしまう危険性があります。



それを避けるための方法の一つしかありません。自分のうちに活きた信仰を養い、意識的に感謝の祭儀に参加する事です。ところが、人間の「おこない」には、必ずと言っていいほどマンネリ化の現象が現れます。気づかぬ間に、ものの新鮮味が薄れ、全てが習慣化してしまいます。

マンネリ化に気づいた時、信仰の内に「出直す」ように心がけなければならないと思います。一主の日になれば、私たちは、感謝の祭儀に参加するために教会に集うのですが、信仰の内の「出直し」がなければ、感謝の祭儀に参加する事が、単なる習慣になりかねない危険性があります。感謝の祭儀の意味と意義の理解を深めようとしない限り、感謝の祭儀への参加は、ただ「日曜の務め」を果たす—という事だけになる可能性さえあるのです。そうであれば、誠に残念だという他はありません。…私自身幼い時から、感謝の祭儀に参加したにも拘わらずその素晴らしさに気づき、目覚めたのはかなり遅く、青年になってからでした。それは、海軍に入り、軍艦の演習のため航海に出て、感謝の祭儀に参加することが出来なくなってからでした。大海原を航海中、黄昏時に紅色に染まった雲の中に太陽が沈む時、次の文章を読んだことがあります。



「神よ、アジアの大草原のただ中で、パンもブドウ酒も祭壇もないままに、私はこれらの象徴をたち越えて、あなたの司祭として、地球全体を祭壇となし、その上で世界の営みと苦しみをあなたに捧げます。私のパンとブドウ酒とは、いままさに、地球のあらゆる地点から立ち上がり、あなたの方へ集中して行こうとする一切のエネルギーに他なりません。昔の人々はあなたの神殿に、収穫の初穂と家畜の最良のものを運び入れました。でもあなたが本当に待たてられる奉獻、あなたの飢えを鎮め、あなたの渴きを癒すために、あなたがまいにちひそひつようほつけん毎日密かに必要とする奉獻は、キリストを透して宇宙の成長の流れに運ばれていく世界と人類の成長にほかなりません」

これは、古生物学者でイエズス会の司祭であった、ティヤール・ド・シャルダンの書いた「宇宙賛歌」という作品の中にある「世界の上で捧げるミサ」という箇所の一節です。私とその作品を読んだ時初めて、感謝の祭儀の素晴らしさ、計り知れない規模の大きさに目覚めたのです。一度でもそれを体験すると、平凡な気持ちのまま、感謝の祭儀に参加する事ができなくなります。

*ところで感謝の祭儀の素晴らしさ、荘厳さは一体どこから来るのでしょうか。

—感謝の祭儀が主イエス・キリストを通して神へ捧げられる宇宙万物と人類の最高の感謝の祈りであるからです。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ 15 章 13) とおっしゃったイエスは真の祈り、



最高の祈りとして自らを捧げられました。それは最後の晩餐に始まり、十字架の上で死を経て、復活に至った初めての感謝の祭儀です。そして、私たちは信仰によって、主イエス・キリストと一体となり、それを行うように招かれています。

感謝の祭儀は、イエス・キリストが神に相応しい大祭司と子羊として捧げた最高の祈りです。感謝の祭儀に参加する事は、私たちの全生活を宇宙と全人類のエネルギーと働きに加え、主イエス・キリストへの信仰と愛を通して、神を喜ばせる素晴らしいかけがえのない祈りとなります。

感謝の祭儀は、主イエス・キリストを信じる教会を通して、私たち(人類)と宇宙万物を神への賛歌に変えるのです。

この賛歌は感謝に満ちあふれた祈りです。宇宙万物を創造された神に感謝。人に声かけて、み言葉を述べ伝えられた神に感謝、ご自分の愛するひとり子を与えるほど私たちを愛して下さった神に感謝、罪人である私たちを赦してください。神に感謝。

神の民の集いの中で、私たちのうちに、その感謝の心を養わなければ、感謝の祭儀に参加することは空しい事に等しいのです。

以前は、感謝の祭儀に参加することは義務

だ^{とうじ}とよく^{きょうかい}言^{かんしゃ}われました。当時、教会は感謝の祭儀の大切さを強調するためにそのような表現をしましたが、義務感が薄くなると、感謝の祭儀に参加する動機も消えてしまいかねません。感謝の祭儀は、義務や法律(掟)の世界ではなく感謝の世界です。義務を果たすために、感謝の祭儀に参加するのではなく、神から与えられた自由を活かして、神に感謝するために主イエス・キリストと共に感謝の祭儀を捧げるのです。

感謝の祭儀は最高の感謝の祈りである事を新たに自覚してはと思います。

*それと同時に考えなければならない事がもう一つあると思います。感謝の祭儀は個人的な参加もさる事ながら、個人的な参加を越えた「キリストの共同体」としての参加を呼びかけています。もちろん、個人的な参加がなければ共同体は成り立たないのですが、感謝の祭儀はまず神の民である教会の祈りである事を、再確認しなければならぬと思います。

＝さらに、感謝の祭儀の時に、全世界の教会を思い起こすようにしましょう。どこかで、国籍や、人種の異なった兄弟たちが、主イエス・キリストのもとに集まり、私たちと同じように感謝の祈りを捧げています。主イエス・キリストという同じ絆に結ばれて、神の民として神に向かい、私たちキリスト者はみんなこの地上で人類

に「道」を案内しようとしています。視野を大きく広げて、すでにこの世を去った人々、この地球に散らばっている人々と、その中にある教会を思い、感謝の祭儀に臨めば、自分の狭い枠に閉じこもる事なく、感謝の祭儀の荘厳さにもっと気づく事が出来るのではないのでしょうか。(続く)



～次回は(2)感謝の祭儀の誕生と発展について書く予定です。